

【舟形町】  
校務DX計画

令和5年3月文部科学省で、GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議の提言（GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高速化を目指して～）をとりまとめ、次世代の校務DXの方向性が示されたところである。

ここでは、現在の校務情報化の課題、今後数年にかけて次世代の校務支援システムの整備やクラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用といった次世代の校務DXの方向性、今後取り組むべき施策が記載されている。

舟形町として教職員の働き方改革の検討は急務となっており、校務のDX化を推し進めることにより、教職員の働き方改革を促進する。

### 1. 校務DXの推進について

校務DXの推進に向けて、教職員のICTの知識の向上や授業でのICT活用の促進のため配置してあるICT支援員を活用して促進していく。

教職員の研修・会議については配布しているタブレットや大型提示装置を利用して、ペーパーレス化をさらに促進していく。また、学校間や教育委員会と学校との連絡や通知は、引き続き、原則、メールや共有フォルダを利用して行い、押印についても原則廃止に取り組む。

保護者との連絡手段については、欠席遅刻等の連絡や文書等の配布はGoogle Workspace for Educationを活用していく。

### 2. 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在校務支援システムについてオンプレミスで運用している。教職員は職員室以外から校務系システムへアクセスできず、校務系と学習系で端末を使い分ける必要がある。これらの課題を解決するためには、校務系システムを従来のように運用するのではなく、ゼロトラストの考え方に基つきアクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系・学習系ネットワークの統合に向けて調査研究していく。

### 3 次世代校務DX環境の整備について

「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」において方向性が示された「次世代校務DX」環境（ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方）を目指し、必要な環境整備について県教育委員会とも連携しながら、検討を深める